

News Letter

2021.3 第 10 号

Educational and Academic Support Organization

社会の変化と教育研究支援機構の活動

教育研究支援機構長 伊藤直治

令和2年度より教育研究支援機構長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

教育研究支援機構は、機構を構成する各センター・図書館の相互連携とその機能の調整を行うことにより、奈良教育大学の教育・研究ならびに地域への貢献に資することを目的として活動しておりますが、令和2年度におけるセンター等の活動は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）によって大きな影響を受けました。4月には新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が全国に出され、本学は休講措置をとり、大学構内への立ち入りも全面禁止となりました。さらに、学外での活動も大きく制限されたことにより、予定していた事業の多くが中止もしくは延期せざるを得なくなりました。センター等の活動は停滞し、先行きの不確実性に大きな不安を抱くような状況でした。

しかしながら、その後、新型コロナウイルス感染症対策とそれぞれの活動との両立を図るため、様々な工夫を行ってきました。その結果、低下していた活動は徐々に回復してきたところであり、本ニュースレターではコロナ禍において行ってきた活動をご報告いたします。

令和2年度は、教育に係わる状況が少なからず変わった年度でもあります。小学校の学習指導要領が新しくなり、小学校英語が教科化され、プログラミング教育が必修化されました。また、大学入試センター試験が廃止され、大学共通テストが実施されました。本学は教員養成大学として、このような変革に対応し、さらに Society 5.0 やポストコロナなど社会の構造的変化にも対応していくことが求められています。このような状況下で、教育研究支援機構も様々な変化に対応しつつ、センター等の発展や研究の多様化を促進し、異分野融合の取り組みを支援してセンター等の枠を超えた価値創造が生じるよう促しながら、地域社会の変革を推進する組織となるべく活動してまいりたいと思います。

この苦難を乗り越えていけると信じて、全ての皆様のご健康とご安全を心より祈念いたします。

奈良教育大学教育研究支援機構

図書館（教育資料館を含む）

次世代教員養成センター

- ・ 情報教育部門
- ・ ESD・課題探究教育部門
- ・ 情報基盤部門

国際交流留学センター

特別支援教育研究センター

- ・ 発達支援部門
- ・ 教育実践支援部門

理数教育研究センター

- ・ 教育プログラム推進部門
- ・ 先端科学教育部門

自然環境教育センター

- ・ 教育研究開発部門
- ・ 地域開放部門

【図書館】

1. 図書館の取り組み

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、図書館は4月から6月にかけて臨時休館となりました。再開後もしばらくは短縮開館が続き、閲覧席も一部制限するなど、従来とは大きく異なる環境での1年となりました。

(1) 図書郵送貸出サービスの実施

臨時休館中の学生の自宅学習支援のため、5月より図書の郵送貸出および所蔵雑誌等の複写物郵送提供サービスを実施しました。サービス終了の9月25日までに、のべ88人に344冊の図書を郵送で貸出し、5件の複写物を提供しました。

(2) 図書館ガイダンスの実施

1年生対象の必修授業「大学での学び入門」内で実施していた図書館ガイダンスが中止となりました。後期に対面授業が一部再開されたことで、専修の教員より依頼をいただき、少人数の授業内での図書館ガイダンスを5回実施しました。



図書館ガイダンスの様子

(3) ラーニング・コモンズ等の活用

ラーニング・コモンズおよびグループ学習室といった、複数人で対話しながらの利用が想定される施設について

は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、3月から休館を挟んで9月まで閉鎖していました。10月に後期授業が対面・非対面の両方で開始されたことから、発話を伴う非対面授業が受講できる場として、座席数を減らした上でラーニング・コモンズとグループ学習室を開放しました。

ラーニング・コモンズは広い空間が確保できること、無線LANやプロジェクターなどの設備が整っていることから授業等でも幅広く活用されました。またグループ学習室が模擬授業等の録画に活用されていたことから、スマホ用の三脚を導入し、録画環境を整えました。

1月には学生対象のアンケートを実施し、ラーニング・コモンズの利用実態や要望について調査を行いました。調査結果をもとに、よりよい学習環境の整備を引き続き検討していきます。



オンライン会議システムを併用した授業風景

(4) オンラインブックハンティング・電子ブック試し読みサービスの実施

例年、大阪や京都の大型書店に足を運んで図書館に置きたい本を学生に選んでもらう「ブックハンティング」を、今年度はオンライン上で実施しました。また、学生の自宅学習支援のために、電子ブックの試し読みサービスも実施し、期間中利用の多かった図書やシラバス掲載図書を中心に電子ブックを整備しました。

(5) 授業関連図書コーナーの整備

シラバス掲載図書と各学問分野の初学者が最初に読んでもらいたい図書を揃えた授業関連図書コーナーについて、図書館運営委員会委員の協力のもと「初級」「中級」のようにレベル付けを実施しました。レベル付けされた図書には「初級」「中級」等のシールが貼られ、一部の本の帯には教員からの推薦コメントを掲載しています。また、ブックガイド「〇〇の本棚(特別支援教育の本棚、国語教育の本棚など)」を作成し学生に配布しました。



(6) 展示会の実施

図書館1階ライぶらりギャラリーにて、図書館主催の展示会「正倉院模造復元品展」を実施しました(10/26-11/7)。



また、「世界の絵本をのぞいてみよう」(10/5-10/16、国際交流留学センター)、「で・あいのある世界展」

(1/20-2/10、「で・あいのある世界展」実行委員会・特別支援教育センター)、大学院「伝統文化発信法 II」成

果展(2/15-2/19)、「#tanka の世界へ 喜多瑛優短歌展」(3/24-4/23、本学大学院生)といった学内の様々な展示企画にも活用されました。

2. 教育資料館

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、教育資料館は4月から年度内休館となり、例年実施していた企画展も中止となるなど、教育資料館の活動が制限された1年となりました。

(1) WEB 展示会の実施

活動が制限された中でも、感染症対策を徹底しながら授業による展示実習や卒業・修了展示を行い、その成果を「第10回奈良教育大学博物館実習成果報告展—私たちの暮らしと文化」、令和2年度文化遺産教育専修卒業・修了展覧会」として教育資料館HPにWeb展示としてインターネットに公開をしました。



第10回奈良教育大学博物館実習成果報告展—私たちの暮らしと文化



令和2年度文化遺産教育専修卒業・修了展覧会

【次世代教員養成センター】

◆ ESD・課題探究教育部門 ◆

1. 教員養成カリキュラム開発領域

次世代の教員に求められる資質能力を育むために、学部カリキュラムの変更の一環としていくつかの授業が新設されたり、再編されたりしています。そのうちの目玉の一つとして、2020年度から2回生必修の「学校フィールド演習Ⅰ（学校体験活動）」が開講されました。

本科目は、副題として「学校体験活動」という名前がつけられている通り、大学の講義室ではなく、実際の学校現場に出向き、授業観察や指導支援等を行うことを通じて、子ども理解を深めることを目的としています。同時に、教員という仕事のやりがいや面白さ、難しさについても、実体験を通じて感得することもねらっています。全国の教職課程でも、実施されているところがありますが、本学のように、全学生に必修化しているところはほとんどありません。教員養成のフラグシップ（旗艦）である教育大学の社会的使命にも鑑み、この科目を実施しています。

学校フィールド演習Ⅰは、幼稚園、小学校、中学校・高等学校の3つのクラスに分かれて実施します。授業全体と各クラスのコーディネートを、本領域の4名の教員（兼任含む）が担当します。2020年度は、2回生271名が本科目の受講を通して、奈良市立学校や附属学校園の現場で支援活動に携わりました。

実際の活動内容は、授業の観察や支援、行事活動の補助、特別支援学級の支援、学校環境の整備、部活動指導など多岐にわたっており、受入校からは、大変熱心で意

欲的に活動しているという評価をいただいています。また、この支援活動をきっかけに、引き続きスクールサポーターの活動を行う学生もいます。学校現場の空気に触れながら、大学の講義室ではなかなか得ることのできない「実践知」を、できるだけたくさん、そして多様に、身につけていってほしいと願っています。

（資料）学校フィールド演習Ⅰ シラバス（抜粋）

目的：

学校園における授業支援、学習支援等の活動（スクールサポート活動）を通して、授業・保育場面における子どもの「姿」についての理解を具体的に深めることを目的とする。

到達目標：

1. 授業・保育場面における子どもの「姿」の特徴について、具体的に説明することができる
2. 子どもの「姿」の「背景」について、協議等を通じて推測することができる。
3. 教師の指導（かかわり）のありようについて、子どもの「姿」と「背景」に関する考察に基づいて、説明することができる。

Cuffet：

5. 子ども理解

授業計画：

- 第1回 実施ガイダンス
- 第2回 フィールド活動基礎論
- 第3回 授業・保育場面における子どもの姿①
- 第4回 授業・保育場面における子どもの姿②
- 第5回 授業・保育場面における子どもの姿③
- 第6回 フィールド活動（1）
- 第7回 フィールド活動（2）
- 第8回 フィールド活動（3）
- 第9回 フィールド活動（4）
- 第10回 中間報告会（ポスターセッション）
- 第11回 フィールド活動（5）
- 第12回 フィールド活動（6）
- 第13回 フィールド活動（7）
- 第14回 フィールド活動（8）
- 第15回 成果報告会

2. ESD・教材開発領域

ユネスコスクールオンライン近畿地方大会を開催

ESD・教材開発領域では、令和2年度「ユネスコ未来共創プラットフォームの発展に資するユネスコスクールネットワーク活性化事業」を受託し、11月1日と8日にプレ大会、15日にはユネスコスクールオンライン近畿地方大会を開催しました。事業内容は、ユネスコスクール間の児童生徒の交流による取り組み意欲の向上と授業実践の相互参照による質的向上を目的とした、次世代の担い手である児童生徒によるESD子どもフォーラム、近畿ユネスコスクール子ども宣言の作成、教員等によるESD実践交流会、ユネスコスクールの現状と課題に係る意見交流会及びESD講演会です。ESD子どもフォーラムでは、7校が日頃の取組を動画で発表しました。奈良市立都祁小学校(奈良)、奈良教育大学附属中学校(奈良)、神戸市立大沢中学校(兵庫)、関西創価高等学校(大阪)、立命館守山高等学校(滋賀)、京都外大西高等学校(京都)、和歌山県立橋本高等学校(和歌山)です。この子どもフォーラムに参加した72名の児童生徒と本学のユネスコクラブ等の学生が、事前に近畿地方のユネスコスクール集めていた作文等をもとに、話し合い、「近



畿ユネスコスクール子ども宣言」を作成しました。
オンラインでの子ども宣言作成のための話し合い

1. 私たちはジェンダー、人種、地域、文化、職業などの違いを認め合ひましょう。また、生物多様性を大切にしましょう。(多様性)
2. 私たちは自分自身の考え方・捉え方を見直し、未来のために、今できることを考えましょう。(価値観)
3. 私たちは貧困、飢餓、人権、環境、紛争などの地球的な課題を深く理解し、自分にできることを考え、解決するために行動しましょう。(自分ごと化)
4. 私たちは一人一人の話し合いから始めて、ユネスコスクールの輪をみんなに広げていきましょう。(つながり)
5. 私たちは誰一人取り残さず、地球に住む全ての仲間とともに協力し、平和で幸せに暮らせる地球をつくります。課題の解決は一人では出来ません。私たちは仲間をつくり、仲間を広げ、仲間とともに行動します。(決意)

近畿ユネスコスクール子ども宣言(抜粋)

ついに開催 ESDボランティアフォーラム

ESDで育てる価値観に、世代内・世代間の公正を尊重する、幸福であることを大切にする、というものがあります。このような価値観を育てる上では、利他的行動を行う経験として、ボランティア活動が有効です。ESDを学ぶ学生、及び現職教員のみなさんにボランティア活動を勧めています。そして、さらにボランティア活動をしてみよと思う仲間を増やすために、昨年、ESDボランティアフォーラムを企画しました。しかし新型コ

コロナウイルスの感染拡大の影響で開催できませんでした。そして、ようやく 2021 年 3 月 7 日に、本学の安全企画委員会と合同で開催することができました。講師を務めて下さった養父市立建屋小学校の坂本和宏先生からの「心のケア」をテーマとしたご講演のあと、ユネスコクラブと安全企画委員会がボランティア実践を報告し、その後のシンポジウムにおいて参加者全員で、ボランティア活動をしたことで、自分の何が変化したかを意見交換しました。「人と人の温かいつながりの大切さを意識するようになった」という意見が多くありました。阪本先生からは、ボランティアは市民参加による課題の解決なので、これからの社会づくりの基本になる、そこで身に付けるスキルやスピリットは、教員になったときにも役に立つとおっしゃっていただきました。これからも、ボランティア活動に取り組んでみようという仲間を広げたいと思います。



シンポジウム

「ボランティア活動の意義を多面的に考える」

3. 学校・地域教育支援領域

(1) スクールサポーター研修の実施

本年度は、2つの点で新しい展開となりました。

第一に、コロナ感染拡大防止のため、スクールサポ

ーター2級研修については、奈良市教育委員会の了解のもと、例年の対面式の研修に代えて、京阪奈三大学連携事業で作成したスクールサポート研修ビデオを活用し、



● スクールサポーター2級・認定研修

スクールサポーター2級・認定研修

スクールサポーター2級認定研修会

スクールサポーター研修プログラム（スクールサポート研修・遠隔研修）は、学校における教育支援人材（スクールサポーター）の育成を目的とするものです。スクールサポーターとして活動するために必要な学校支援活動の方法や子どもの人権・発達等に関する理解を深めたり、実際の活動の中で学んだ事項を理論的・審美的に理解し直したりする研修からこのプログラムは構成されています。スクールサポーターの認定には1級と2級があります。この研修はスクールサポーター2級研修です。スクールサポーターとして活動するための準備学習に相当するもので、スクールサポーターの活動を希望する人は受講する必要があります。2020年度は、コロナウイルス感染防止のため、対面での研修が当面のところ実施できません。一方で、学校支援活動も8月下旬から始まります。そのため、各学生が、スクールサポーター2級研修と併せて遠隔研修のビデオ研修教材を視聴し、下記の手順で作成された「提出レポート」を担当教員が確認することにより、「スクールサポーター2級」の認定を行います。

● スクールサポーター2級認定研修会の受講希望者は下記の教材を視聴してください。
申し込みは不要です。（受講料・給費料は無料）
視聴後「提出レポート」を作成し、学生支援課スクールサポート担当まで提出してください。

● スクールサポート研修ビデオ教材の視聴はこちら

講義内容	講義1「スクールサポート認識」	22分
講義2「スクールサポート方法論」	11分	
講義3「子どもと理解」	11分	

● レポートの提出はこちら
【提出先】
学生支援課 スクールサポート担当 市までメールに添付して提出してください。
メールアドレス: kyokushuen@nara-edu.ac.jp

● レポートの提出期限及び発表期限
8月21日（月）

● スクールサポーター2級の認定書の発行を希望する方は、申請書を提出してください。
2020年度スクールサポーター2級認定証発行申請書はこちら

印刷・郵送で送付してください。
630-8528 市役所市役所
奈良教育大学 学生支援課 スクールサポート担当 宛

● スクールサポーター1級認定研修会は9月頃にお知らせします。



その視聴とレポート提出による認証としました。

第二に、本年度から、スクールサポーター2級研修を新たに2回生必修となった「学校フィールド演習Ⅱ」の導入部分に位置づけ実施しました。このため、2級受講者が337名と昨年度112名の3倍となりました。

第三に、広報についても、コロナ禍のもとで学生ボランティア説明会なども不開催となったため、センターホームページ等を活用することとなりました。

スクールサポーター1級研修会については、受講者がそれぞれ20名程度と比較的少人数でもあるため、対面形式で10月、11月に実施しました。

スクールサポーター1級・認定研修

スクールサポーター1級の取得を希望される方は、スクールサポーター2級を取得したうえで、下記の提出物（10回分）の受講費 5・6・7 の受講。ならびに3の中間研修（受講費）の受講が必須となります（参加費用・認定料無料）。



①提出物

「活動報告書」を10回分作成し、それぞれ活動先のスクールサポーター担当教員が署名・捺印したものを学生支援課スクールサポート担当窓口へ提出してください。

※報告書は各級認定研修会で配布したものを支援課のフックにもあります。

※おしはご虫はまたダラダラとしたもので構いません。痛て提出してください。『活動報告書の書き方はこちら』。



②スクールサポーター1級「講義5・6・7」の日程と内容

日程： 2020年11月7日（土）

※当日は9時から乗付受付開始

場所： 次世代教員養成センター2号棟（多目的ホール）

※状況により開催場を変更する場合はお知らせします。

講義内容

講義5 9:20～10:20

『スクールサポーター活動報告書』

講師：本学教員 西橋 崇仁

講義6 10:30～12:00

『宿習のあるごころ支援講座』

講師：本学講師 高井 崇崇

講義7 13:00～14:00

『現代の子ども・教育現場』

講師：本学教員

スクールカウンセラー 樺月 智子

「講義5・6・7」の申込はこちら

※現在、当講座を休止しています。

なお、従来実施していた教育支援人材認証協会「こどもパートナー」養成講座は、コロナ感染拡大防止のため、不開催となりました。

(2) 不登校などの小・中学生のための居場所「ねいらく」のとりくみ(2017年12月)

月 19 日より開設)

○概要

学内施設である寧楽館において、不登校などの小・中学生のための居場所・学習支援は、毎週火曜日の展開で、学生ボランティア 10 名

が関わってくれています。コロナ禍の中で、3月から6月までは対面式は閉所していましたが、5月上旬からZoomによるオンライン居場所（土曜日）を開設しまし

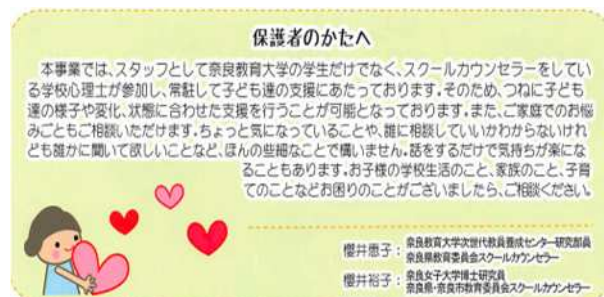
た。また、7月始めからは、密にならない分散型居場所（火曜日）を展開し、14時30分から16時、16時から17時30分の二部制で実施しています。

利用者は、定期的来訪者 10 名を中心に 17 名ほど（令和 3 年 2 月末現在）となっています。地域的には、奈良市を中心に生駒市、大和郡山市、田原本町、橿原市、京都府南部などから来てくれています。ほぼ毎週来ている子もいれば、不定期に参加する子、オンラインだけの子など、子どもの状況により多様です。

○事業の趣旨

この事業の趣旨は、次の通りです。

- ・ 不登校の児童・生徒など問題を抱える子ども達の居場所づくりです。
- ・ 居場所の中で、子どもの社会性や他者とのコミュニケーション力を育みながら、「心のエネルギー」を貯めることを中心に展開しています。
- ・ 奈良県、奈良市などで活動するスクールカウンセラー2名が運営スタッフとして参加することで、子どもの心身の育ちを支援するとともに、保護者の相談



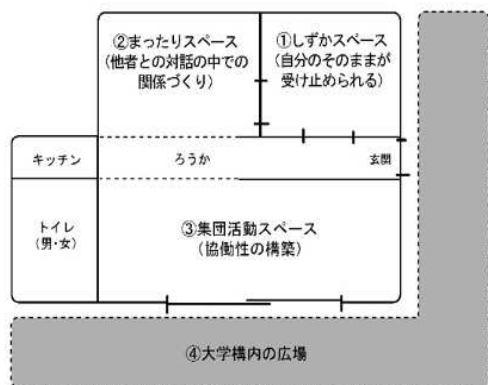
にも対応することも目的としています。

- この事業は、子ども一人ひとりの心身の育ちや学びを支えるための取り組みであるとともに、子どもを通して家庭の支援にもつながるものでもあります。
- 奈良教育大学の学生がボランティアスタッフとして参加しています。そのため、今後教員として働く

学生たちの教育臨床現場での臨床力を高めることも期待できると考えます。

○居場所の空間について

居場所「ねいらく」の拠点である寧楽館には、トイレ・洗面所（男女別）とキッチン



以外に、3つのスペースがあり、それが特徴となっています。

・「しずかスペース」：静かな環境で、面談したり、学習したり、静かに過ごしたりしたい場合に利用します。

・「まったりスペース」：カーペットを敷いて、2～3人で話をしたり遊んだり、少し学習を見てもらったり、ゆっくり活動する場合に利用します。

・「集団活動スペース」：がやがやと話をしたり、ボードゲームをしたり、イベント活動をしたりして、集団で過ごすために利用します。

このように、子どもの状況や活動の種類によってスペースを分け、子どもたちがストレスなくそれぞれの活動に集中できるように配慮しています。

(3)「ペアレント・トレーニング」セミナーの実施(10月31日)

セミナーは、当事者の家族を中心としつつ、子ども・若者支援に従事する者、学校の教員なども対象としています。目的は、不登校やひきこもり等の生きづらさを抱える子ども・若者の自尊感情を大切にする対応をロールプレイしながら考えあい、実践につなげていくことです。



2020年10月31日(土)

セミナー

ペアレント・トレーニング

「発達障害・不登校の子どもたち」のための
自尊感情を大切にしたい子育て

発達障害かも知れない、又は発達障害と診断されたがどう育てたら良いのでしょうか？

登校しづらい、または不登校になってしまったが、どうやっていたらよいのでしょうか？

ペアレント・トレーニングは、困難を抱えてしまった子どもの自尊感情を高め、意欲や人との関わり方をどうしてやったら良いのか考える親のトレーニングです。

セミナーの受講者は、27名でした。

具体的には、次の活動を展開しました。

① 9:30～10:40

- ・ ペアレント・トレーニングの基礎
- ・ 好ましい行動を増やす(行動の3分類)(トレーニング)

② 10:50～12:20

- ・ 効果的な指示の出し方(トレーニング)

③ 13:20～15:00

- ・ 好ましくない行動を減らす(トレーニング)

(4)居場所「ねいらく」の不登校支援の一環としての保護者支援

今年度、居場所支援「ねいらく」では、奈良教育大学付属小学校と連携して、不登校の子ども達の保護者を対象に、下表の保護者支援を行いました。本実践の目的は、保護者の精神的安定、親子関係や養育態度の改善を図ることです。

ほめることは、甘やかすことにはなるのではないかな。
自分がほめられた経験が無いからほめられないのです。
どうしたら良いのでしょうか？

子どもの自尊感情を高める
子育てについて、
考えてみましょう。

定員30名(先着順)
ZOOM参加約10名

場所：奈良教育大学
講義棟101教室
(110名程度収容の教室を使い、ソーシャル・ディスタンスを取って、講座を行います)

主催：奈良教育大学
次世代教員養成センター
ESD・課題探究教育部門
学校・地域教育支援領域
共催：子ども・若者支援専門
職業実践研究科
(代表 生田 周二)

オンライン保護者会	全 8 回 (1 回: 50 分間)	不登校の子どもを抱える保護者の心理的援助や孤立化防止。 同じ不登校という問題を抱える保護者同士の交流やネットワーク構築。
進路相談保護者会	2020 年 8 月 31 日	不登校当事者より、中学卒業後の進路選択について話を聞く会。多様な進路選択への知識を得ることで、保護者の不安感を和らげる。
アート・セラピー	全 3 回(1 回: 90 分)	保護者らの精神的安定や抑うつ感の軽減をはかる
ペアレント・トレーニングセミナー	2020 年 10 月 31 日	上記(3)参照

本実践の結果、参加した保護者からは、自身の抱えるしんどさやこだわりへの気づきや、子育てや子どもの不登校という問題に対応に前向きに対応していこうとする反応が得られました。さらに、オンライン保護者会やアート・セラピーでの雑談などを通して、自然とお互いの悩みや現在の状況について情報を交換しあうようになり、保護者同士の自助ネットワークが構築されていきました。

また保護者会やセミナーは、Zoom という双方向性のあるオンラインミーティングツールを併用して実施されました。不登校の保護者はその不安感やしんどさにより孤立しやすい傾向にあります。しかしオンラインでの交流や参加は、物理的に知り合いに会うことはなく、誰にも知られずに匿名で参加できるというメリットが発生するため、自身を守りながら知識や情報に触れるためのファーストコンタクトの場として機能していました。そしてこの初回の接触を通してスクールカウンセリングや専門的な支援につながるという事例も見られました。

(5)『不登校・ひきこもりのためのハンドブック—2021年版奈良県サポート団体・相談窓口一覧—』作成(2021年3月刊行)

不登校の状態にある子ども・若者の保護者、また不登

校やひきこもりの事柄に関わっておられる方々にとって、関連する機関・団体、地域の居場所、フリースクールなどに関する、分

かりやすく身近な情報が求められています。本ハンドブックは、不登校・ひきこもりの当事者目線に立ったものとするこ

とすることで、より現実に対応した内容となるように工夫しています。2017 年度に作成したものをより新しい情報を入れた改訂版でもあります。



(6) ボランティアサポートオフィスの活動

主には次の3つの活動があります。

- ・ 外部の団体からの要請で学生をボランティアとして派遣

ボランティア派遣要請がいくつかありましたが、コロナ感染拡大防止のために学生の派遣は見送りました。

- ・ 学生スタッフによる自主活動

学生スタッフは定期的な会合は持てませんでした。「ひまわりプロジェクト」は東日本大震災の塩害対策で植えられたひまわりを通して、震災を忘れずに次の世代へ伝えていこうと、外部の団体や個人と協力してひまわり栽培の活動を続けました。海外の子どもたちにワクチン代を寄付する目的で、ペットボトルのキャップ回収を続けています。学内や地域の協力があります。

・ 東北教育復興支援

東日本大震災後、宮城教育大学と連携して東北への支援を継続してきましたが、コロナ感染拡大防止のために実施しませんでした。

4. 教育臨床・学校カウンセリング領域

教育臨床・学校カウンセリング領域では、2020 年ならやま公開講座（オンライン研修）として 3 回の連続講座「教育相談に活用できる アート活動を通じた面接技法を学ぶ」を開催しました。講師は、次世代教員養成センターの教員である市来と栗本が担当しました。市来と栗本はアートセラピーが専門分野であるため、このセミナーでは、学校の現場で活用できる「アート活動」を通じた面接技法を学ぶためのセミナーとしました。

2020年 奈良教育大学次世代教員養成センター
ならやま公開講座（オンライン研修）

**教育相談で活用できる
アート活動を通じた面接技法を学ぶ**

今年度の実践セミナーは、スクールカウンセラーや養護教諭等に向けての非言語的な面接技法を体験的に学ぶためのセミナーを行います。
この技法を体験的に学ぶことによって、コロナの影響でさまざまなストレスを抱えている子どもたちにアート活動を通して、保健室や適応指導教室、カウンセリングルームなどで安心した居場所を提供することが可能になります。
上記のようなそれぞれの場所でこの技法を活用するために、体験に即しながら実際の素材のそろえ方や導入の方法、創作過程での見守りについてお話しします。
実際に創作することによる自分の表現や気づきなどを通して、アートを通じた非言語的な面接について、楽しみながら学んでいきます。

体験を伴った技法なので、素材はこちらから郵送させていただきます。簡単な創作を体験していただけるようになります。

ご自身のリラクゼーションとしてもぜひご参加ください！

今回はZOOM開催となります 定員12名まで 先着順

日時

第1回：10月17日（土） ティッシュ・アート/トランスバレントペーパー （栗本）
第2回：11月7日（土） はがきコラージュ コラージュ技法 （栗本）
第3回：11月21日（土） アート・ワークシート活用 （市来）

時間 AM 10:00～12:30

※ 1回のみのご参加可ですが、3回ともご参加される方を優先させていただきます

受講対象：スクールカウンセラー、教育相談にかかわっている教員および養護教諭・適応指導教室指導員等

ファシリテーター： 市来 百合子 次世代教員養成センター 教授
栗本 美日合 特任准教授
海 栄子 特任講師

なお申込み方法
①右のQRコードから参加申し込み画面を出して
内容を入力し、**9月26日（土）まで**にお申し込みください。
②参加申し込みの後、振込先をメールで配信致しますので、
参加費3500円をお振込みください（材料費込み）
③振込確認後、素材を郵送し、ZOOMのURLコードをご連絡いたします。

お問い合わせ：市来研究室 idiki@oc.nara-edu.ac.jp

主催：奈良教育大学次世代教員養成センター 教育臨床・学校カウンセリング領域

コロナ禍のため、対面でのセミナー開催はできなかったため、事前に素材などを郵送し、オンラインでの実施となりました。

本テーマで開催した理由は、この技法を体験的に学ぶことによって、コロナの影響でさまざまなストレスを抱えている子どもたちにアート活動を通して、保健室や適応指導教室、カウンセリングルームなどで安心した居場所を提供することが可能になります。そのため、対象者をスクールカウンセラー、教育相談にかかわっている教員および養護教諭・適応指導教室指導員等とし、学校現場ですぐに活用してもらえるアート活動を紹介しながら、アート活動の意義や実践方法を説明するセミナーとしました。送付した素材やアート・ワークシートを通してアート活動を体験しながら、アート活動がどのようにここに働きかけるのか、参加してくださった方が実感を伴った学習になるようなプログラムを用意しました。



3 回のセミナーでは、遊ぶことがこころに働きかける意義やどのような場を提供すれば、こころのケアにつながるアート活動になるなどの講義をした後、実際の創作体験として身近なティッシュを使ったアート活動からはじめ、透ける折り紙や雑誌の切り抜きを利用したコラージュという技法、アート・ワークシートを使って描画による対人交流などの体験を行いました。

セミナーの感想として「地域での活動や、スクールカウンセラーとしての学校の仕事でアートワークをする時など、とても役に立ちそうです。」や「不安症で不登校

になっている子や学校に不適應感を持っている子のセラピーとして、安心して使えそうに思いました。」など実践的にすぐに活用でき、役立つという感想も多く寄せられました。

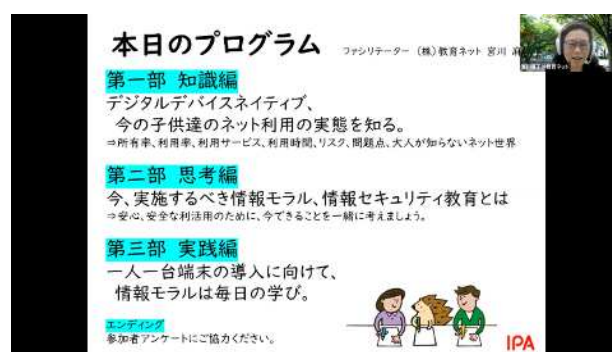


通常、アート活動を伴うセミナーは対面で行なっていますが、今回はコロナ禍のため、オンラインで行なわざるを得なくなりました。主催者側にとってもオンライン開催では、アート活動を提供することが困難ではないかと危惧されましたが、申し込みを受け付け始めると遠方からの参加者も多く、すぐに募集定員に達しました。そして3回目のセミナーが終わった後のオンラインアンケートでの全体的な感想では、「オンラインとは思えないほどの学びがありました。」「オンラインの良さを感じたかもしれません。映像を消して、作品作りに集中でき、他の人と比べることがないので、とても気持ちよくやれたような気がしています。」「オンライン研修で講義ばかりだと、とても疲れてくるのですが、講義とワークのバランスも程よく、集中する時間、力をぬく時間とほどよく、疲れを感じさせないあつという間の研修でした。」との感想が寄せられ、「今後も是非、定期的にこうした企画を続けて欲しいです。」という継続への要望も多く寄せられました。主催者側にとっても、オンライン開催における新しい視点や利点を見出すことができたセミナーとなりました。

◆情報教育部門◆

情報教育部門では、教員の ICT 活用指導力向上に資することとして、教材開発や公開講座、奈良県内の自治体と連携した教員研修を実施しています。

本年度は、2021/01/26 に、「教育関係者向け安全教室（インターネット安全教室）」(IPA(独立行政法人 情報処理推進機構) 講師 宮川麻子氏)をオンライン型で開催しました。受講生は本学の学生 23 名でした。昨今の子どもを取り巻くネット事情の状況について、各種統計データを示して頂きながら、IPA がこれまで開発・普及してきた情報セキュリティ啓発の映像素材を紹介しながら、学校現場で情報モラル授業を展開する際の留意点などをグループごとで考えて全体共有する展開でした。参加学生からは「自分が考えているよりもずっと、子どもたちが情報機器を使いこなしていることに驚いた」や「小さな時から SNS やゲームに触れてきてきたからこそできる授業もあると思うので、しっかり授業を考えていきたい」などの感想がありました。



奈良県内の学校訪問型の教員研修としては、山添村立山添中学校（研究主題「主体的に学び、多様な問題を解決する生徒の育成」：2021 年度のへき地大会開催予定）において、学習指導要領上、学習の基盤と位置づいた情報活用能力の育成を中学校全体で取り組む

ことを目指し、県の指導主事とともに、年間数度訪問する形で、授業研究や、教科横断的に取り組むための指導の体系表を先生方が話し合いながら整理する取組を支援しました。また、GIGA スクール構想による環境整備に備えて、家庭・地域と連携した情報モラル教育の推進に関する取組（川西町立川西小学校）への支援活動なども行いました。



◆情報基盤部門◆

情報基盤部門（情報館）では、基幹ネットワークや基盤システムを運用しており、安全・安心・安定した情報システムサービスの提供に努めています。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、様々な点で例年とは異なる形で1年が進行しました。特に、大学に通学せずに授業を受ける非対面授業が多く行われました。情報館では、このような状況において、以下のような対策・対応を行ってきました。次年度も継続して、安心して授業を受講できるようにサービスを改善・検討していきます。

- 共同利用 PC の感染症対策

座席の間隔確保、透明パーティションの設置など。状況によって、座席予約制の導入も行っています。

- オフィスソフトのダウンロードサービス

各自の PC にオフィスソフトをインストールして利用できるように、Office365 デスクトップ版アプリ（word, excel, powerpoint 等）がダウンロード可能です。

- ノート PC の貸し出し

自宅等で PC を準備することが困難な学生に対して、台数に限りはありますが、ノート PC の貸し出しを行っています。

- Microsoft Teams のサービス運用管理

非対面授業においてリアルタイムでの授業を実施するためのツールです。

【国際交流留学センター】

本センターでは、受け入れ留学生への日本語日本文化教育とともに、国際的視野を持った教員の養成に資することを目的とした教員養成大学ならではの国際交流事業を展開しています。設立7年目となる2020年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、例年よりも規模を縮小し、また内容も変更して、（１）受け入れ留学生教育の運営、（２）学内における異文化交流の活性化、（３）派遣留学生の奨励と支援、（４）附属学校園や地域と連携した国際交流の推進、の活動を行いました。活動成果の詳細は、以下の通りです。

（１）受け入れ留学生教育の運営

2020年度、本学では、アジア、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカなど、さまざまな国から前期は44名、後期は37名の留学生を受け入れました。その中には、文部科学省の奨学金を得て、日本の教育事情を研修するために留学している海外の現職教員（教員研修留学生）がおり、2019年10月からの半年間の日本語集中研修を経て、今年度4月から本学での専門教育研修に参加しました。それぞれの研修課題について指導教員の下で調査研究を行ったり、関西圏の学校現場で児童生徒や教員と交流を行ったりしました。また当センターが提供する日本語・日本文化プログラムにも参加し、その成果として、3月には日本での研修生活について日本語で発表を行いました。

日本のイメージ



日本に来る前から
イメージがありました

まじめな国
グレーのまち



漢字はモノトーンみたいでしたが、
その練習は とてもカラフルで すばらしい思い出です。



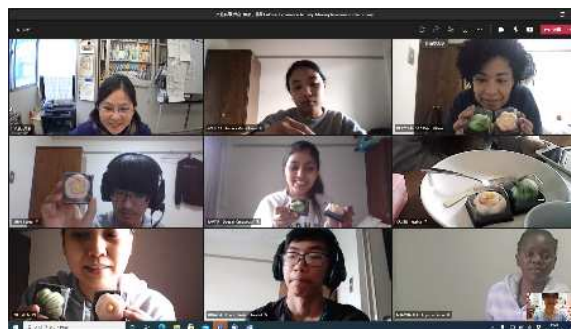
また本年度前期には本学が協定を結んでいる4ヶ国4校の交換留学生8名、文部科学省奨学金プログラム日本語日本文化研修留学生は7か国から7名が本学に在籍しました。交換留学生・日本語日本文化研修留学生は2019年10月に来日し、奈良で留学生生活を送っていましたが、留学途中で本学での教育プログラムはオンライン実施、または中止となってしまいました。母国から遠く離れた日本での非常事態下での留学は思い描いたものと大きく異なり、不安も大きかったと思いますが、前向きに、そして協力的に研修に取り組み、8月にはオンライン修了発表会で留学中の研究成果を披露しました。



後期からは本学協定校の西安外国語大学からの交換留学生2名、日本語日本文化研修留学生4名を受け入れています。またその他にも、私費での学部生、大学院生、学部研究生が本学で学んでいます。これらの留学生の中には渡日後2週間の隔離生活を経て奈良での生活を始めた者、2021年3月現在、渡日の目途が立っておらず、自国から授業等に参加している者もいます。

このように対面での活動が制限される中、授業以外にもオンラインを活用した教育プログラムの提供にも挑戦しました。例えば、2月には本学技術教育専修（担当：世良啓太先生）の協力のもと、大学、本学国際学生宿舍、中国をつないで、3Dプリンターを使った「灯ろうづくりワークショップ」を開催しました。また3月にはオンラインで「和菓子作り」の文化体験を行いました。

なお、留学生が少しでも安心して留学生活を送れるように、本学では新型コロナウイルス感染拡大に伴う政府や大学の対応、生活支援のための情報を英語で提供する「留学生支援サイト」を開設し、留学生への支援の充実に努めています。



今年度本学への留学を希望していた留学生の中にはやむを得ず留学を辞退した者もありましたが、来年度は例年のようにより多くの留学生を受け入れられるようになることを願っています。

（2）学内における異文化交流の活性化

①留学生・日本人学生の共修機会の提供

本学では、留学生と日本の学生とが共に学び合える機会を多く提供しています。今年度前期は、留学生科目「日本語文献講読（言語）」の授業で、「教育課程演習（担当：橋崎頼子先生）」を受講する日本人学生有志とのオンライン合同授業を行い、日本国内外の教育制度や問題について意見交換を行いました。また後期には、留学生科目「日本語コミュニケーション」と「教育課程特講」（担当：橋崎頼子先生）で、10月から本学に留学している留学生と「教育学特講」受講生とのオンライン特別授業を行いました。キャンパスへの入構が制限された状況下にあって、貴重な学び合いの機会となりました。



②学内における国際交流活発化のための取り組み

授業以外でも、国際交流の場を用意し、留学生と日本の学生とが出会う機会を多く提供しています。例えば、現在、約 35 名の学生が留学生サポーターとして活動しています。1 月 22 日には留学生とサポーターとの顔合わせ会をオンラインで開催し、サポーターが「節分」について紹介したり、一緒に折り紙を折ったりしました。その後も留学期間を通して親交を深めています。



また 10 月 5 日～10 月 16 日には本学図書館にて「世界の絵本をのぞいてみよう」を開催し、本学留学生寄贈の絵本約 80 冊を本学図書館で展示しました。



さらに、コロナ禍で自由な交流が制限される中で、学生たちの国際交流を後退させないように、本センターでは、海外の協定校とオンラインでつながるプログラムも

試行しました。セントラルミシガン大学で日本語を学ぶ留学生有志と本学学生をマッチングし、日本語・英語の交換レッスンをする「言語交換プログラム」もその一つです。また同大学で第 2 言語としての英語教育法を学ぶ学生と本学の学生をマッチングし、英語で交流を行う「カンパセーション・パートナープログラム」も初めて行いました。コロナ禍は私たちに多くの犠牲や我慢を強いていますが、これらオンラインでつながる試みは、この未曾有の非常時に生まれた、国際交流の新しい可能性と言えるでしょう。

また、1 月 25 日には、本センター主催で、「文化的言語的に多様な子どもたちの支援を考える」と題したシンポジウムを開催し、奈良市教育委員会学校教育課から指導主事の中西利彦氏、日本語指導コーディネーターの植田央子氏を迎え、外国人児童生徒等の教育に関わったご自身の経験について語っていただきました。本学の学生にとって、学校現場の多文化化に伴う課題からグローバル化がすすむ社会で必要とされる教員の資質や能力とは何かを考える機会になりました。

(3) 派遣留学の奨励と支援

日本の学生の海外留学が促進される中、新型コロナウイルス感染拡大のために留学の中断を余儀なくされた 3 名の学生のオンライン帰国報告会を開催しました。留学期間を全うすることは叶いませでしたが、多くの学びを得、大きく成長していることがわかる発表内容に、報告会参加学生は大いに刺激を受けていました。また 2020 年 8 月より、国際交流協定校のアメリカ・ロックヘイブン大学へ 2 名、セントラルミシガン大学へ 2 名、そして華東師範大学へ 1 名を派遣予定でしたが、新型コロナウ

ウイルス感染拡大のため、すべての派遣が中止となっていました。渡航を伴う留学が困難な状況の中で、新たな留学の形態も模索されています。華東師範大学派遣予定だった学生は、同大学等のオンライン中国語講座を受講し、来年度の派遣の機会に備えています。

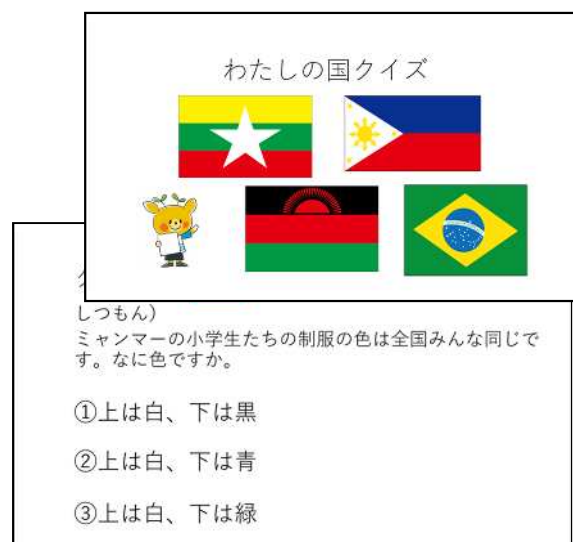
派遣留学生に対しては、本学の支援奨学金制度に加えて、2021年度は「海外留学支援制度短期研修・研究型（協定派遣）」が採択され、派遣留学支援の後押しになることが期待されています。

本センターでは、今後も学生支援課と連携して、派遣留学の推進に努めるとともに、協定校が提供するオンラインプログラムに関する情報収集や新たな派遣留学の可能性の模索と促進に取り組んでいきたいと思っています。

(4) 附属学校園や地域と連携した国際交流の推進

① 附属学校園との連携

本学では、留学生と日本の学生とが共に、附属校園でさまざまな実践を行っています。例年は、交換留学生、大学院留学生が本学の附属幼稚園、小学校、中学校での交流を通して多くの学びを得ていますが、今年度はそれらのほとんどが中止となりました。そのような中で、11月には、教員研修留学生が附属小学校5年生の「外国語」の授業に参加し、児童に対して自国の文化、言語を紹介しました。



以上のように、本センターでは、留学生に対して日本語日本文化教育を提供するだけでなく、留学生プログラムを核にして、学内における国際交流の環境を醸成すると共に、その活動内容や成果を必要に応じて学内外へ発信しています。また、海外協定校派遣留学生が得た成果を、帰国後に学内に効果的に還元させることにも取り組んでいます。その他の活動の詳細は、国際交流留学センターのホームページ (<http://cies.nara-edu.ac.jp/>) で紹介しています。

本センターは、本学の国際交流の基本方針の一端を担っています。次年度も引き続き、留学生プログラムの充実に努めるとともに、日本の学生と留学生との共修や、附属学校園等との連携につとめていきます。そして、留学生教育と連動させながら、グローバルな視点に立った教員養成に資する活動を行っていく所存です。

【特別支援教育研究センター】

1. 活動概要

特別支援教育に関わる理論と実践に関する教育研究を総合的に行い、特別支援教育を担う人材の養成に寄与するとともに、地域における児童生徒等の教育的ニーズに応じた特別支援教育推進に貢献します。主な事業内容は、①特別支援教育の内容と方法に関する理論的実践的研究、②教育学部、大学院の特別支援教育に関わる人材養成とスクールサポーター、特別支援ボランティア等の学生の研修等の実施、③発達障害もしくはその疑いのある幼児から高校生を対象とした教育相談・発達相談、④教育委員会等と連携した共同研究、⑤特別支援教育に関する公開講座および研修の実施です。スタッフは、児童精神科医、臨床心理士、公認心理師などの専門家です。平成28年度から「学校教育体系全体を視野に入れたインクルーシブ教育システムの構築と合理的配慮・ユニバーサルデザイン教育の開発」に取り組み、今後よりいっそう地域連携に基づく教育相談・発達相談の充実を目指します。

2. 令和2年度研修事業

【公開講座】

① 「夜尿・チックの原因は本当にストレスか？」 (R2.11.14(土))

講師：根来 秀樹
(特別支援教育研究センター長／児童精神科医)

心因的なものと誤解される傾向にある子どもの夜尿とチックの問題について、医学の最新知見をもとに生物学的な背景など正しい理解と適切な対応について学ぶオンライン講座を開催しました。

② 「子どもはどのように数を理解していくのか？一遊び・生活の中にある“かず”と算数」 (R3.2.27(土))

講師：山名 裕子 氏
(秋田大学教育文化学部教授)

認知発達の観点から、子どもが数を理解していく過程を子どもの目線で考え、算数学習における子どものつまずきを理解するヒントを学ぶオンライン講座を開催しました。

【教育セミナー】

① 「学びのユニバーサルデザイン」

(R3.2.10(水))

講師：川俣 智路 氏(北海道教育大学大学院 教育学研究科高度教職実践専攻)

奈良県内の教育関係者、本学学生を対象にインクルーシブ教育の推進に向けて、通常学級における特別な支援を必要とする子どもたちへの適切な指導について学ぶオンラインセミナーを開催しました。なお、本セミナーは奈良県教育委員会事務局特別支援教育推進室による支援を受けて実施しました。

3. 令和2年度相談事業

【保護者・子ども向けプログラム】

① 寺子屋

学習困難のある児童を対象とした少人数制の学習支援であり、月2回(第2・4水曜日 16:00～17:00)実施しています。子どもの発達特性に応じて学習計画を立て、子どもたちが学びやすい方法を見つけて楽しく勉強することを支援しています。学校の勉強の復習や取りこぼし箇所の補填などに加えて、タブレットを使ってゲーム形式で学べる漢字、計算学習、パソコンを使ったローマ字のタイピング練習など子どもたちのニーズや興味関心に合わせて取り入れています。

スタッフは特別支援教育を学ぶ大学生、大学院生であり、学生にとっても発達障害のある子どもたちの学習支援について実践的に学べる機会となっています。



パソコンでローマ字の
タイピング練習中♪

② 夏休み!!宿題おたすけプロジェクト

本年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、実施が叶いませんでしたが、当センターで例年行っている取り組みの一つです。学ぶ力はあるのに、注意集中の困難、衝動性、読字書字の困難、こだわりや感覚過敏などの認知や感覚のアンバランスによって学習に困難が生じてしまう子どもたちを対象とした学習支援です。教員を目指す学生や現職教員が「おたすけ隊」となり、発達障害を専門とする児童精神科医、臨床心理士、公認心理師とともに、子どもたちの夏休みの宿題を3日間で終わらせるサポートを行います。計算ドリルや漢字ドリルだけでなく、作文、工作、自由研究、書初め、リコーダーの練習など様々な宿題に対応しています。また、並行して保護者を対象としたペアレント・トレーニングも行っています。



リコーダーの猛特訓中!!



苦手な作文もタブレット
を使って無事完成!!

③ 鉄オタ倶楽部

発達障害のある子どもたちが自分の興味や関心をとことん追求しながら集団の中で社会的スキルを学ぶことを目的とした活動であり、3年目を迎えました。本年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、大学での活動実施が困難となっていました。Zoom ミーティングを利用したオンラインでの活動に切り替え、月に一度の定例会を継続的に実施しています。慣れない環境での活動となりましたが、スタッフの心配をよそに子どもたちは大好きな鉄道について語り合えることを楽しんでいるようです。また、パソコンの操作が

得意な子どもたちも多く、撮影した鉄道の写真や作成した鉄道PV（動画）を画面上で共有してメンバーに見せたり、パソコンで作成したオリジナルの架空路線について紹介し合ったりとオンラインだからこそできる楽しみ方も新たに見つけたようです。また、ミーティングと同時にチャットでもおしゃべりをしたり、クイズを出したりと大盛り上がりの様子でした。例年、3月に大学で発表会を行っていましたが、本年度はオンラインで開催することとなりました。子どもたちは今年も鉄道の様々なジャンル（Nゲージ、架空鉄道、鉄道クイズ等）に分かれてチームを結成し、発表の準備を進めています。



【鉄道PVをみんなで見ている様子】



【お気に入りの鉄道模型を見せ合う様子】

【個別相談（発達相談・教育相談）】

令和2年度4月から9月までは、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、相談事業を一時的に停止しておりましたが、10月から感染予防の対策を行い、相談受付人数を制限しながら再開しました。本年度は2月26日時点で延69件の相談がありました。当センターでの発達相談および教育相談は予約制で、ホームページからWEB申込みが可能です。

【理数教育研究センター】

優れた理数系教員の養成を目指す当センターの活動では、本学学生の教育ならびに学校現場・地域との連携のもと、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の流行のため、しっかりとした予防対策をとれる事業に限り実施しました。以下、それらの一部を紹介します。

1. 「まほろば・けいはんなサイエンスフェスティバル」

奈良県立奈良高等学校主催の「令和2年度まほろば・けいはんなサイエンスフェスティバル」に、センターの教員5名が講評者として参加しました。サイエンスフェスティバルでは例年、奈良県、大阪府、京都府のSSH連携校が一同に会し、探究活動の成果をポスター形式で発表しますが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、Web上での開催となりました。11月7日（土）より14日（土）までの期間にWeb上に公開された各校の探究活動のポスター、発表要旨(及び動画)に対して教員よりコメントを送付しました。



また、本センターの片岡佐知子特任准教授と小川特任助教は11月13日（金）に開催された「オンライン講評会」に参加し、取り組みに対する全体的な講評と今後に向けた課題について意見を述べました。

2. 高校生のための素粒子サイエンスキャンプ「Belle Plus」

高エネルギー加速器研究機構（KEK）との共催で、高校生を対象とした素粒子サイエンスキャンプ「オンライン Belle Plus（ベルプリュス）」を開催しました。このキャンプは、KEKのBelle実験で実際に行われてきた最先端の研究活動を高校生に体験してもらうことを目的として、平成18年度より実施しています。14回目となる今回のキャンプは、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年どおりの開催は困難となったことから、12月27～29日と1月5日にオンライン形式で開催し、北海道から沖縄まで全国から17名の高校生が集いました。

本センターの片岡佐知子特任准教授は、実行委員長としてキャンプの企画・運営に携わるとともに、実習の指導にあたりました。



キャンプの中核となる実習では、Belle実験で使用されている粒子測定器や実験データなどを活用した以下の3つの課題を実施しました。

- Belleの実験データの中から粒子を探索する研究
- ワイヤチェーンバーを用いて宇宙線の降り注ぐ角度を測定する研究
- Belle実験で観測可能な現象の理論的研究

また、キャンプでは実習を行うだけでなく、実習結果

をまとめて考察を加え、それらを発表する時間を設けています。12月27日～29日の3日間の実習と発表準備を経て、1月5日の発表会では、それぞれの発表に対して高校生が質問を投げかけ合う場面もあり、研究者さんからの活発な議論が交わされました。

この他にも、素粒子物理学の講義やオンライン施設見学やサイエンスカフェ、交流会を実施しました。

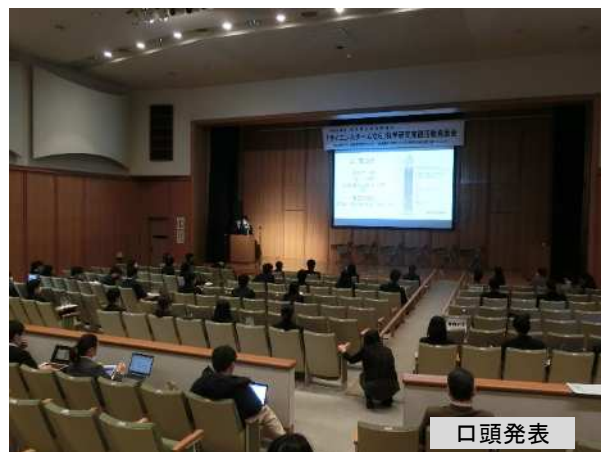
アンケートでは「色々な現象を素粒子の視点で見るようになった」、「学校で学んだ内容がこういったものに活用できる知識なのか主体的に考えられるようになった。」、「新型コロナウイルス感染症により学校でも実験がほとんどできていなかったため、オンラインではあるけれども、実験をできたことが嬉しかった」といった感想が述べられていました。



オンライン実習

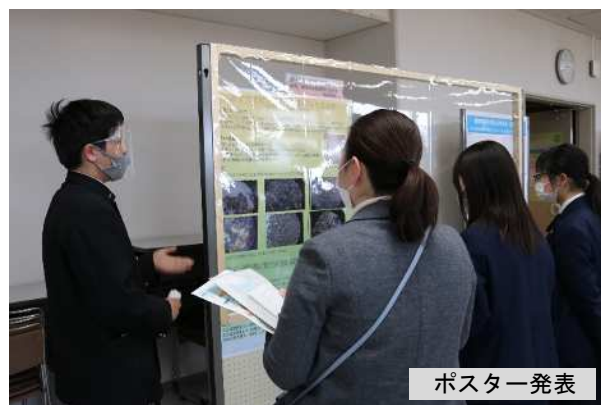
3. 「サイエンスチームなら」科学研究実践活動発表会

2月11日（木・祝）に奈良県立教育研究所にて「サイエンスチームなら」科学研究実践活動発表会を実施しました。この発表会は県内の中学校、中等教育学校、高等学校及び特別支援学校における科学研究実践活動の振興を図るとともに、生徒の科学に対する興味・関心及び、探究的な活動に関する技能・表現力を高めることを目的としています。新型コロナウイルス感染症拡大防止



口頭発表

に留意しつつ、活発な議論や研究交流が行われました。中学校2校、高校5校が参加し、8件の口頭発表と5件のポスター発表、2件の動画による発表を行いました。本センターから参加した片岡特任准教授、常田准教授、小川特任助教の3名が各発表に対して講評を行いました。



ポスター発表



全体写真

4. ウィンタースクール 2021 イン 曾爾

10年を超える奈良県曾爾村との連携協力事業の一環

として、今年度も引き続き「ウィンタースクール 2021 イン 曽爾」を3月2日（火）に開催しました。（サマースクールは新型コロナウイルス感染症の流行により中止しました。）曽爾小中学校 7～9 年生の生徒に理科・数学を楽しく学んでもらえるよう、奈良教育大学の学生が工夫を凝らした以下の3つの講座を実施しました。



開校式

・火を使わないのになぜ加熱できる？IH 調理器の秘密



・身の回りには放射線の存在を確認してみよう！



・タコを解剖しよう！



閉会式後集合写真

【自然環境教育センター】

1. 新型コロナウイルスの影響およびその対応

新型コロナウイルスは、自然環境教育センター実習園にも大きな影響をもたらしました。

実習園では、授業や実習、公開講座、近隣幼稚園などによる芋ほり遠足などで賑わい、年間 3,000 人日程度の利用がありました。しかし、今年度に限っては多くの事業は中止または縮小され、2021 年 4 月から 2022 年 3 月までの年間利用者数は 1,000 人日程度に減少しました。

実習園では基本的には屋外で行う田畑での作業を行いますので、教室で行われる授業などにおいて注意喚起されている「3 密回避」はあまり考える必要はありませんでした。そもそも、2017 年度末に実習園建物の深刻なシロアリ被害や老朽化が発覚して以来、耐震性への懸念などから実習園での授業・実習において室内での講義などがほぼ行われておらず、実質上は屋外の田畑での実施が主となっていました。これに関しては、もとより屋外での作業が中心となる実習園の強みといえるかもしれませんが、他の授業でも休講が相次いでいた 4・5 月は実習園においても授業を行っていなかったのですが、6 月以降は本学の授業実施基準に従い、新型コロナウイルス感染症への対応が可能な概ね 10 人未満の授業・実習のうち幾つかを、3 密を避けて実施するようになりました。10 人以上の授業では代替授業を行いました。たとえば、授業「保育内容の指導法(環境 I)」ではサツマイモの定植を通じて幼年教育で行われるサツマイモ栽培の実践と自然観察をする予定でしたが、20 人程度の授業でしたので中止となり、同様の内容をオンラインで授業しました。

実習園では、一般市民向けの公開講座「畑で汗を流しませるか」と小学生向けの公開講座「米作り体験学習」を例年実施してきましたが、受講者募集を公示する直前の 4 月中に実施の可否を検討する必要があったため、先行き不透明な中でやむを得ず中止しました。



図 1. マスク姿でサツマイモを掘る園児たち。

一般利用としての近隣保育園幼稚園などによるサツマイモ・ジャガイモの芋ほりの利用に関しては、利用人数が多くなるため 6 月まではジャガイモ掘りは中止していましたが、サツマイモ掘りシーズンにあたる 10 月になると本学の基準が緩和されたこともあり、屋外で 3 密を避けることを基本として実施しました(図 1)。幼稚園児などの来園受付などが普段と異なるやり方であったため、財務課の職員にも手伝ってもらいました。ただし、公共交通機関(バス)を利用して白毫寺町にある本学実習園に来ることを避けて来園と芋掘り遠足を取りやめる保育園幼稚園もありました。サツマイモの植え付けは 6 月に行いますが、その頃は 10 月にどうなるかはわからなかったので、例年通りの畝数に植え付けていました。そのため、実際に来園される保育園・幼稚園が少ないとせっかく植えたサツマイモを収穫する人手が足りなくなります。これに関しても、財務課職員・自然環境教育センター教員も手伝って収穫作業をすることとなりました(図 2)。例年は何十人もの子供たちの力であつというまに掘りつくされるサツマイモですが、いざ少数の職員たちで掘り出そうとすると、思った以上の重労働になりました。



図 2. 教職員で収穫したサツマイモ。

大学教員・研究部員などによる研究利用は、小規模な活動なので特に中止することなく実施しました。人間たちの混乱をよそに、実習園の生き物たちも、研究のために育てられている植物たちも、また栽培されている作物たちも例年と変わりなく過ごしているようです（図 3）。



図 3. 実習園で大きく育ったタマネギ。

イネの作付け時期もサツマイモと同じ頃、5・6月頃なのですが、やはり見通しが立っていなかったので例年通りとしました。ただし、公開講座や授業で子供たち・学生らが手作業で田植えするはずだった場所は、田植え機で田植えしました。また、収穫に関してもコンバインを用いて稲刈りしました。少し味気ない気もしますが、機械の偉大さを思い知らされる年になりました。畑に関しては、公開講座や授業で利用する予定だった

畝は、作付けする主体がいなくなりましたので作付けは実施されず、実質休耕として畑を休ませることとしました。新型コロナウイルスが今後どのようなようになるのかの見通しはいまだ立っていませんが、来年度も通常通りの授業・公開講座などを実施するものとして、実習園では計画・実施してゆく予定です。

2. 実習林の砂防堰堤工事進捗

2011 年に深層崩壊した奥吉野実習林では、災害後すぐから国土交通省による復旧と砂防堰堤の工事が行われています（図 4）。この砂防堰堤工事の今後の予定は流動的ですが、2022 年度半ばくらいまでには主要な工事を終え、全体の終了はもう少し先になりそうです。



図 4. 国土交通省の砂防堰堤計画 (<https://www.kkr.mlit.go.jp/kiisankei/map/3.html> 2021 年 2 月 3 日確認)。

災害後は復旧を目指して、それまで実習林で行ってきた授業・公開講座などを途切れさせることなく代替措置を行ってきましたし、災害の記憶を忘れないように防災教育に取り組みました。しかし、代替措置はあくまでも代替措置であり、実習林で行ってきた授業や公開講座と同等のものが実施できているわけではありません。また、公開講座として利用する施設の借り上げ料金など、余分な費用がかさんでしまうのも悩みどころです。

とはいえ、実際に実習林での活動を再開しようとすると幾つもの問題が生じます。土砂災害からの安全確保は言うまでも

ありませんが、2014 年の大雨で被害を受けて現在使用停止中の実習林の建物等の復旧に少なくない費用が必要です。また、新たな災害が起きた時のリスクも挙げられます。一時は、実習林の廃止も検討されましたが、学長や施設課、財務課などと協議することで、学長からコストの低い現実的な方法が提案されました。これを受けて今年度は、建物等の復旧を最低限として野外活動が行えるように存続させる方針が検討されました。詳細はほとんど決まっていますが、施設課などを中心に今後の利用再開に向けて取り組んでいます。

3. 奈良教育大学センター協働防災教育プロジェクト

2015 年に本学の自然環境教育センター、理数教育研究センター、保健センターが協働して開始した“センター協働防災教育プロジェクト”も 6 年目を迎えます。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、例年通りの活動は実施できませんでした。教員免許更新講習「奈良の自然災害を知って子供を守る～防災教育入門～」（8・10 月）は、これまでに約 400 人の現職教員が履修しておりますが、不開講となってしまいました。しかしながら、センター協働防災教育プロジェクトとしては、今後もこれを継続することで、さらなる防災教育の普及を図ってまいりたいと考えています。一方、2018 年度に発足した“奈良教育大学防災訓練プロジェクトチーム”（座長：笠次良爾 教授）を中心に、コロナ禍に対応したオンデマンド全学防災研修会が令和 3 年 1 月 25 日（月）～3 年 2 月 28 日（日）に開催されました（<https://elearn.nara-edu.ac.jp/course/view.php?id=1081>）。防災研修会では、冒頭の学長挨拶、奈良市の地質的背景、大規模地震における初期行動、本学安否確認システムへの登録法、ファーストエイド、消火栓の使用法など、6 項目のビデオ動画を用いた防災教育が実施され、確認テストにより防災知識の定着を図っています。それぞれの動画では、講演者が自身の専門知識を活かした興味深いレクチャーを行っており、受講者が面白いと思って見ること

ができる方法で災害への注意喚起や防災知識の紹介が行われていました。また、アンケート調査を実施することにより、改善の模索が計画されており、さらに学生消防団の活動を紹介する PR 動画等も公開されることにより、本学の防災教育ならびに学生の防災意識の向上が図られました。

センター協働防災プロジェクト HP URL:

http://mail2.nara-edu.ac.jp/%7Emasaki/Center_Cooperative_Education_Project_for_Disaster_Prevention/EP_DP_Home.html

図書館

<https://libwww.nara-edu.ac.jp/drupal/>

次世代教員養成センター

<https://jisedai.nara-edu.ac.jp/>

国際交流留学センター

<http://cies.nara-edu.ac.jp/>

特別支援教育研究センター

<http://cp-support2.nara-edu.ac.jp/hp/>

理数教育研究センター

<http://nesm.nara-edu.ac.jp/>

自然環境教育センター

<https://www.nara-edu.ac.jp/ECNE/>



奈良教育大学

〒630 - 8528 奈良市高畑町

奈良教育大学教育研究支援課

TEL : 0742 - 27 - 9369

E-mail: kyoken-shienka@nara-edu.ac.jp